

柳川の「相方」として

「磨けば光る地域資源がたくさんあり、ポテンシャルの高い街」。柳川市に移り住んで4年余り。すっかりなじんだ土地の魅力を、デザイナーとして活動する甲斐恵佳さん(35)はこう表現する。

熊本県八代市出身、熊本市の崇城大と筑波大学院で環境デザインを学んだ後、東京・目黒区の外郭団体で5年間にわたり町づくりに携わった。広報誌作成や区民参加のイベントを企画する日々を過ごした。「予算も潤沢でなかったのに、何でも自分たちでやった。手作りの活動の楽しさを知った」

デザイナー 甲斐 恵佳さん (35)

5年間の任期を終え、「地域に暮らす」との思いを胸に地方への移住を考えた時、東京で開かれた福岡県の移住相談会で柳川市に出合った。「それまで観光地に住んだことがなく、観光地としての柳川がま

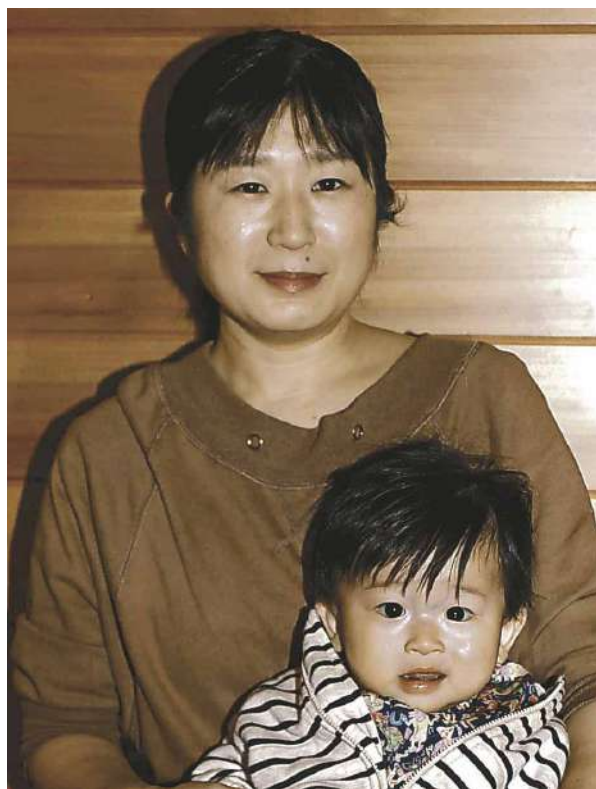
ぶしく見えた」。同市の地域おこし協力隊に応募、2016年に着任し19年まで、市の商工ブランド振興課などで特産品のPR、販売活動に汗を流した。

東京の百貨店での物産展で

は一日中、立ちっぱなしで販売、商品売り上げの管理、柳川の街の宣伝などに奔走。「最初はのりの違いや味も分からなかった。加工の仕方や季節ごとの商品の違いなどを勉強した」。活動を通じ、地元の仕事者との信頼関係を築き、通信販売の販路拡大にもつなげた。「元々、柳川の人ではないので、よそ者の視点というのか、客観的に見る部分もあったの

かな」。地元の人々が当たり前と考え、見落としがちな特徴も、県外の人々には新鮮に映る、そんな点も売り込んだ。協力隊で活動する中、3年の任期後を見据えてデザイン

地域と触れ合い魅力発信



19カ月の長男・千景ちゃんの子育てと並行してデザイン制作を続ける甲斐恵佳さん
⑤甲斐さんがデザインした柳川市のリサイクルボックス

現在は、9カ月になる長男の子育てとの両立に忙しい毎日。12月にオープンする市の文化会館のロゴデザインや、SNSアカウントの開設にも参加するなど仕事の幅を広げている。

「柳川という街、柳川の方々とこの縁を大事に仕事を続けていきたい」。街の人々と触れ合いながら、柳川の「アイカタ」として魅力を発信し続ける。

(室中誠司)